

齊太公 世家

- (1) 太公望呂尚－ (2) 丁公呂伋－ (3) 乙公得－ (4) 癸公慈母－
(5) 哀公不辰－ (6) 胡公靜－ (7) 獻公－ (8) 武公－ (9) 厲公－
(10) 文公－ (11) 成公－ (12) 莊公－ (13) 釐公－ (14) 襄公－
(15) 桓公－無諡 (諡無し) － (16) 孝公－ (17) 昭公－
(18) 懿公－ (19) 惠公－ (20) 頃公－ (21) 靈公－ (22) 莊公－
(23) 景公－ (24) 晏孺子－ (25) 悼公－ (26) 簡公－ (27) 平公
－ (28) 宣公－ (29) 康公 → 威王 (これより田氏の齊)

太公望呂尚は東海の上の人なり。其の先祖は嘗て四嶽と為り、禹を佐け、水土を平らげて、甚だ功有り。虞・夏の際、呂に封ぜられ、或いは申に封ぜらる。姓は姜氏なり。夏・商の時、申・呂の或いは枝庶を封じ、(本家の)子孫の或いは庶人と為る。尚は其の後の苗裔なり。本姓は姜氏。其の封に従い姓とす。故に呂尚と曰う。呂尚は蓋し嘗て困窮し、年老いたり。漁釣を以て周の西伯(文王)に奸(干に通じて、もとめる)む、西伯、將に出でて獵せんとし、之をトす。曰く、「獲る所は、龍に非ず、麕(チ、みずち)に非ず、虎に非ず、罽に非ず。獲る所は、霸王の輔なり。」是に於いて周の西伯、獵し、果たして太公に渭の陽(渭水の北側)に遇い、與に語り、大いに説びて曰く、「吾が先君太公自り曰く、『當に聖人有りて、周に之くべし。周以て興らん。』子は真に是ならんか。吾が太公、子を望むこと久し。」故に之を号して太公望と曰う。載せて與に俱に帰り、立てて師と為す。或いは曰う、太公、博聞にして、嘗て紂に事う。紂、無道にして之を去る。諸侯を遊説し、遇するところ無くして、卒に西して周の西伯に歸す、と。或いは曰う、呂尚は処士にして、海濱に隠る。周の西伯、姜(ユウ)里に拘わるるや、散宜生・閔夭、素より知りて、呂尚を招く。呂尚も亦曰く、「吾聞く、西伯は賢にして、又善く老を養う。盍し往かん。」三人は西伯の為に美女・奇物を求め、之を紂に獻じ、以て西伯を贖う。西伯、以て出づるを得て、国に反る、と。呂尚の周に事うる所以を言うこと、異なると雖も、然り、之を要して文・武の師と為る。周の西伯昌の姜里を脱して歸るや、呂尚と與に陰かに謀り、徳を修め、以て商の政を傾く。其の事は兵権と奇計多し。故に後世の兵及び周の陰権を言うは、皆太公を宗とし、本謀と為す。周の西伯の政は平らかなり。虞・芮の訟を断ずるに及びて、詩人、西伯の(天より)受命を称して、文王と曰う。崇・密須・犬夷を伐ち、大いに豊邑を作る。天下を三分し、其の二は周に歸するは、太公の謀計、多きに居る。文王崩じ、武王位に即く。九年、文王の業を修め、東伐し、以て諸侯の集否を觀んと欲す。師行く。師尚父、左に黄鉞を杖つき、右に白旄(ボウ)を把り、以て誓いて曰く、「蒼兕(ソウ・ジ、九頭を持つ怪獸、それに因んで舟の楫を掌る官名)や、蒼兕、爾の衆庶と爾の舟楫を総べよ。後れて至らん者は斬れ。」遂に盟津に至る。諸侯の期せずして会する者は八百諸侯。皆曰く、「紂は伐つ可きなり。」武王曰く、「未だ可ならず。」師を還し、太公と與に此の太誓(尚書の泰誓)を作る。居ること二年、紂、王子比干を殺し、箕子を囚らう。武王、將に紂を伐たんとしてトするに、龜兆は吉ならず。風雨暴かに至り、群公、尽く懼る。唯だ太公のみ之を強いて、武王に勸む。武王、是に於いて遂に行く。十一年、正月甲子、牧野に誓いて、商の紂を伐つ。紂の師、敗績す。紂、反りて走

	<p>り、鹿臺に登る。遂に追いて紂を斬る。明日、武王、社に立つ。羣公、明水（月光を受けて鏡面に溜まった露水、祭祀に用いられる清水）を奉じ、衛の康叔封、采席（ハン・セキ、幣帛を供える敷物）を布き、師尚父、牲を牽く。史佚（史官の名）、策祝（竹や木片に書いた祝詞）し、以て神に紂の罪を討ちしを告ぐ。鹿臺の錢を散じ、鉅橋の粟を発し、以て貧民を振わし、比干の墓を封じ、箕子の囚われを釈し、九鼎を遷し、周の政を修め、天下と更始す。師尚父の謀、多きに居る。是に於いて武王已に商を平らげて天下に王たり。師尚父を齊の榮丘に封ず。東して国に就くに、道に宿し、行くこと遅し。逆旅（宿屋）の人曰く、「吾聞く、時は得がたくして失い易し、と。客、寝ぬること甚だ安し。殆ど国に就く者に非ざるなり。」太公、之を聞き、夜に衣て行き、黎明に国に至る。莢（キョウ）侯、来たりて伐つ。之と營丘を争う。營丘は莢に辺す。莢人は夷なり。紂の乱に会いて、周、初めて定む。未だ遠方を集んずるを能わず。是を以て太公と国を争う。太公、国に至りて、政を修む。其の俗に因り、其の禮を簡にし、商工の業に通じ、魚塩の利を便にす。而して人民多く齊に帰し、齊は大国と為れり。周の成王の少き時に及びて、管・蔡、乱を作し、淮夷、周に畔く。乃ち召康公をして太公に命ぜしめて曰く、「東は海に至るまで、西は河に至るまで、南は穆陵に至るまで、北は無棣（テイ）に至るまで、五侯九伯は、実に之を征するを得（五侯九伯が罪を犯したときは、之を征伐してもよい）。」齊、此れに因り、征伐するを得て、大国と為り、營丘に都す。蓋し太公の卒せしは百有余年なり。子の丁公呂伋立つ。丁公卒し、子の乙公得立つ。乙公卒し、子の癸公慈母立つ。癸卒し、子の哀公不辰立つ。哀公の時、紀侯、之を周に譖る。周、哀公を烹る。而して其の弟静を立つ。是れを胡公と為す。胡公、都を薄姑に徙す。而して周の夷王の時に當りて、哀公の同母の少弟山、胡公を怨み、乃ち其の党と與に榮丘の人を率い、襲い攻めて胡公を殺して自ら立つ。是を獻公と為す。</p> <p>獻公元年、尽く胡公の子を逐い、因りて薄姑の都を徙し、臨菑に治す。九年、獻公卒す。子の武公壽立つ。</p> <p>842 武公九年、周の厲王、出奔し、彘（テイ）に居る。</p> <p>841 十年、王室乱る。大臣、政を行う。号して共和と曰う。</p> <p>827 二十四年、周の宣王、初めて立つ。</p> <p>825 二十六年、武公卒し、子の厲公無忌立つ。厲公、暴虐なり。故に胡公の子、復た齊に入り、齊人、之を立てんと欲し、乃ち與に攻めて厲公を殺す。胡公の子も亦戦死す。齊人乃ち厲公の子赤を立てて君と為す。是を文公と為す。而して厲公を殺せし者七十人を誅す。</p> <p>824 （厲公元年）</p>
--	--

816	(厲公九年)
804	文公十二年、卒し、子の成公脱立つ。
795	成公は九年にして卒し、子の莊公購立つ。
771	莊公二十四年、犬戎、幽王を殺す。周、東して雒に徙る。秦、始めて列して諸侯と為る。
739	五十六年、晋、其の君昭公を弑す。
731	六十四年、莊公卒す。子の釐公祿甫立つ。
722	釐公九年、魯の隱公初めて立つ。
712	十九年、魯の桓公、其の兄の隱公を弑して、自ら立ちて君と為る。
706	二十五年、北戎、齊を伐つ。鄭、太子忽をして来たりて齊を救わしむ。齊、之に妻わせんと欲す。忽曰く、「鄭は小にして齊は大なり。我に適するに非ず。」遂に之を辞す。
699	三十二年、釐公の同母弟夷仲年死す。其の子は公孫無知と曰う。釐公、之を愛し、其の秩服奉養（俸禄、服飾、其の他の待遇）を太子に比す。
698	三十三年、釐公卒し、太子諸兒立つ。是を襄公と為す。
697	襄公元年、始め太子為りし時、嘗て無知と闘う。立つに及び、無知の秩服を細く。無知怒る。
694	四年、魯の桓公、夫人と齊に如く。齊の襄公、故（もと）嘗て魯の夫人と私通す。魯の夫人は襄公の女弟なり。釐公の時自り嫁し、魯の桓公の婦と為る。桓公、来るに及びて、襄公、復た通ず。魯の桓公之を知り、夫人に怒る。夫人以て齊の襄公に告ぐ。齊の襄公、魯君と飲して、之を酔わせ、力士彭生をして抱きて魯君を車に上らせ、因りて魯の桓公を拉殺（ロウ・サツ、ひしぎころす）せしむ。桓公車より下ろせば、則ち死せり。魯人、以て讓めを為す。而して齊の襄公、彭生を殺し、以て魯に謝す。
690	八年、紀を伐つ。紀、遷りて其の邑を去る
686	十二年、初め、襄公、連称・管至父をして癸丘を成らしむ。瓜の時（瓜のなる時期、この時代の七月頃）にして往き、瓜に及びて代わらんとす。往きて成ること一歳、瓜の時を卒れども、公、為に代わりを發せず。或ひと為に代わりを請う。公、許さず。故に此の二人怒る。公孫無知に因り乱を作すを謀る。連称に従妹有り。公宮に在りて寵無し。之をして襄公に間せしめ、曰く、「事成らば、女（なんじ）を以て無知の夫人と為さん。」冬十二月、襄公、姑芬に遊び、遂に沛丘に獵す。彘（テイ、いのこ、イノシシ、又は豕の古称）を見る。従者曰く、「彭生なり。」公怒りて之を射る。彘、人のごとく立ちて啼く。公、車より墜ちて足を傷つけ、屨（ク、はきもの）を失う。反りて主屨者蒺（フツ）を鞭うつこと三百。蒺、宮を出づ。而して無知・連称・管至父等、公の傷つくを聞く。乃ち遂に其の衆を率いて宮

を襲い、主履莛に逢う。莛曰く、「且く入りて宮を驚かす無かれ。宮を驚かさば、未だ入ること易からざるなり。」無知、信ぜず。莛、之に創を示し、乃ち之を信ず。宮の外に待ち、莛をして先に入れしむ。莛、先に入りて、即ち襄公を戸間に匿す。良（やや）久しくして無知等、恐れて遂に宮に入る。莛、反きて宮中及び公の幸臣と與に無知等を攻め、勝たずして、皆死す。無知、宮に入り、公を求むれども得ず。或るひと人の足を戸間に見、発いて視れば、乃ち襄公なり。遂に之を弑す。而して無知、自ら立ちて齊君と為る。

685 桓公元年春、齊君無知、雍林に遊ぶ。雍林の人嘗て無知に怨み有り。其れ往きて遊ぶに及びて、雍林の人、襲いて無知を殺し、齊の大夫に告げて曰く、「無知は襄公を弑して、自ら立つ。臣、謹みて誅を行う。大夫、更に公子の当に立つべき者を立てよ。唯命を是れ聴かん。」初め、襄公の酔わせて魯の桓公を殺し、其の夫人に通ずるや。殺誅は数々当らず。婦人に淫し、数々大臣を欺き、群弟、禍の及ばんことを恐る。故に次弟糾は魯に奔る。其の母は魯の女なり。管仲・召忽之に傳す。次弟小白は莒に奔り、鮑叔、之に傳す。小白の母は衛の女なり。釐公に寵有り。小白、少き自り好みて大夫高傒（齊の正卿高敬仲）に善し。雍林の人、無知を殺すに及びて、君を立つるを議す。高・国、先に陰かに小白を莒より召す。魯も無知の死するを聞き、亦た兵を發し公子糾を送り、而して管仲をして別に兵を將いて莒の道を遮らしめ、射て小白の帶鉤に中つ。小白、佯りて死す。管仲、人をして馳せて魯に報ぜしむ。魯の糾を送る者、往くこと益々遅し。六日して齊に至れば、則ち小白已に入りて、高傒、之を立つ。是を桓公と為す。桓公の鉤に中てられて、佯りて死するは、以て管仲を誤らす。已にして温車の中に載り、馳せ行き、亦高・国の内応有り。故に先に入りて立つを得たり。兵を發し魯を距ぐ。秋、魯と乾時に戦う。魯の兵敗走す。齊の兵、魯の帰道を掩絶す。齊、魯に書を遺りて曰く、「糾は兄弟にして、誅するに忍びず。請う、魯自ら之を殺せ。召忽・管仲は讎なり。請う、得て甘心（自分を満足させる）して之を醢（カイ、ひしお、肉の塩辛、殺して塩漬けにする）にせん。然らずんば、將に魯を囲まん」とす。」魯人、之を患う。遂に子糾を笙瀆（ショウ・トウ）に殺す。召忽は自殺す。管仲、請いて囚わる。桓公の立つや、兵を發し魯を攻め、心に管仲を殺さんと欲す。鮑叔牙曰く、「臣、幸いにも君に従うを得、君、竟に以て立てり。君の尊きは臣の以て君を増す無し。君、將に齊を治めんとせば、即ち高傒と叔牙とにて足れり。君、且つ霸王たらんと欲せば、管夷吾に非ずんば不可なり。夷吾の居る所の国は、国重し。失う可からざるなり。」是に於いて桓公之に従う。乃ち詳りて管仲を召し甘心せんと欲すと為し、実は之を用いんと欲

	す。管仲、之を知り、故に往かんと請う。鮑叔牙、迎えて管仲を受け、堂阜に及びて桎梏（首枷、足枷）を脱ぎ、齋祓（サイ・フツ、みをきよめ、けがれをはらう）して、桓公に見ゆ。桓公、厚く礼し、以て大夫と為し、政を任ず。桓公、既に管仲を得、鮑叔・湿朋・高傒と與に齊の国政を修め、五家の兵を連ね（管仲が定めた新しい制度、管子一小匡篇）、輕重（物価高低の調整法）魚塩の利を設け、以て貧窮を贍（セン、にぎわす）し、賢能を禄し、齊人皆説ぶ。
684	二年、伐ちて郟（タン）を滅ぼす。郟子、莒に奔る。初め桓公亡げし時、郟を過ぐ。郟、礼無し。故に之を伐つ。
681	五年、魯を伐つ。魯の将師、敗る。魯の莊公、遂邑を献じ以て平がんと請う。桓公、許し、魯と柯に会して盟う。魯、将に盟わんとす。曹沫、匕首を以て桓公を壇上に劫し、曰く、「魯の侵地を反せ。」桓公、之を許す。已にして曹沫、匕首を去て、北面して臣の位に就く。桓公、後に悔やみ、魯に地を與うる無くして曹沫を殺さんと欲す。管仲曰く、「夫れ劫かされて之を許して、信に倍きて之を殺すは、一小快を愈（かりそめ）にするのみ（かりそめに満足するだけである）。而して信を諸侯に棄つれば、天下の援けを失わん。不可なり。」是に於いて、遂に曹沫の三敗して亡いし所の地を魯に與う。諸侯、之を聞き、皆齊を信じて焉に附かんと欲す。
679	七年、諸侯、桓公に甄（ケン）に会す。而して桓公、是に於いて始めて覇たり。
672	十四年、陳の厲公の子完、号して敬仲なるもの、来たりて齊に奔る。齊の桓公、以て卿と為さんと欲す。讓る。是を以て工正（百工を掌る）と為す。田成子常の祖なり。
663	二十三年、山戎、燕を伐ち、燕、急を齊に告ぐ。齊の桓公、燕を救い、遂に山戎を伐ち、孤竹に至りて還る。燕の莊公遂に桓公を送り齊の境に入る。桓公曰く、「天子に非ずんば、諸侯相送りて境を出でず。吾、以て燕に礼無かる可からず。」是に於いて溝を分かちて、燕君の至る所を割き、燕に與う。燕君に命じて復た召公の政を修め、貢を周に納るること、成康の時の如くせしむ。諸侯、之を聞き、皆、齊に従う。
659	二十七年、魯の湣公の母は、哀姜と曰い、桓公の女弟なり。哀姜、魯の公子慶父に淫す。慶父、湣公を弑す。哀姜、慶父を立てんと欲す。魯人、更えて釐公を立つ。桓公、哀姜を召して之を殺す。
658	二十八年、衛の文公、狄の乱有りて、急を齊に告ぐ。齊、諸侯を率いて、楚丘に城きて、衛君を立つ。
657	二十九年、桓公、夫人蔡姫と船中に戯る。蔡姫、水に習い、公を蕩（うごかす）かす。公、懼れ、之を止むれども止めず。船を出で、怒り、蔡姫を

<p>656</p>	<p>帰す。絶たざるに、蔡も亦怒り、其の女を嫁す。桓公、聞きて、怒り、師を興し、往きて伐つ。</p> <p>三十年春、齊の桓公、諸侯を率い蔡を伐ち、蔡、潰ゆ。遂に楚を伐つ。楚の成王、師を興し、問いて曰く、「何の故に吾が地に渉るか。」管仲對えて曰く、「昔、召康公、我が先君太公に命じて曰えらく、五侯九伯、若（なんじ）實に之を征し、以て周室を夾輔せよ、と。我が先君に履を賜いしは（履をはいて行き着くところまで、と言うことで、境界を示す）、東は海に至り、西は河に至り、南は穆陵に至り、北は無棣（ム・テイ）に至る。楚の貢する包茅（ホウ・ボウ、東ねたちがや、祭時に酒をこすのに用いる）入らず。王の祭、具わらず。是を以て来たりて責む。昭王、南征して復らず。是を以て来たりて問う。」楚王曰く、「貢の入らずは、之有り。寡人の罪なり。敢て共えざらん。昭王の出でて復らざるは、君、其れ之を水濱に問え（漢水のほとりで問え）。」齊の師、進みて陘に次す。夏、楚王、屈完をして兵を將いて齊を扞（ふせぐ）がしむ。齊の師、退きて召陵に次す。桓公、屈完に矜るに其の衆を以てす。屈完曰く、「君、道を以てせば、則ち可なり、若し不んば、則ち楚は方城（山の名）を以て城と為し、江漢を以て溝と為す。君安んぞ能く進まんや。」乃ち屈完と盟いて去る。陳を過ぐ。陳の袁濤（トウ）塗、齊を詐わりて、東方に出でしめんとす。覺る。秋、齊、陳を伐つ。是の歳、晋、太子申生を殺す。</p>
<p>651</p>	<p>三十五年夏、諸侯に葵丘に会す。周の襄王、宰孔をして桓公に文武の胙（ひもろぎ、祭りのときに神に供えた肉）・彤（トウ、あかぬり）弓矢・大路（王に朝するときの車）を賜わしめ、命じて拝する無からしむ。桓公、之を許さんと欲す。管仲曰く、「不可なり、」乃ち下りて拝して賜を受く。秋、復た諸侯を葵丘に会す。益々驕色有り。周、宰孔をして会せしむ。諸侯、頗る叛く者有り。晋侯病みて、後る。宰孔に遇う。宰孔曰く、「齊侯、驕る。第だ行く無かれ。」之に従う。是の歳、晋の獻公卒し、里克、奚齊・卓子を殺す。秦の穆公、夫人を以て公子夷吾を入れ、晋君と為す。桓公、是に於いて晋の乱を討ち、高梁に至り、湿朋をして晋君を立てしめて還る。是の時周室は微なり。唯、齊・楚・秦・晋を強と為す。晋、初め、会に與りしが、獻公、死して国内乱る。秦の穆公は辟遠にして、中国の会盟に與らず。楚の成王は初め荆蛮を収め、之を有ち、夷狄をもて自ら置く。唯独り齊のみ中国の会盟を為す。而して桓公、能く其の徳を宣ぶ。故に諸侯、賓会す。是に於いて桓公称して曰く「寡人、南は伐ちて召陵に至り、熊山を望む。北は山戎・離枝・孤竹を伐ち、西は大夏を伐ち、流沙を渉り、東は馬を束（つかねる、動きが取れないように縛る）ね、車に懸け、太行に登り、卑（へキ）耳山に至りて還る。諸侯、寡人に違ふもの莫し。寡人、</p>

	<p>兵車の会三たび、乗車の会六たび、諸侯を九合し、天下を一匡す。昔、三代（夏・殷・周）の命を受くるも、何を以て此れに異なる有らんや。吾、泰山に封じ、梁父に禪せんと欲す（封は土を盛って壇を作り、天をまつ。禪は地を祓って、山川をまつ。天子のみ行える祭祀）。管仲固く諫む。聴かず。乃ち桓公を説くに、遠方の珍怪の物至り、乃ち封を得るを以てす。桓公乃ち止む。</p>
648	<p>三十八年、周の襄王の弟帯、戎・翟と與に合謀し、周を伐つ。齊、管仲をして戎を周に平らげしむ。周、上卿を以て管仲を礼せんと欲す。管仲、頓首して曰く、「臣は陪臣なり。安んぞ敢てせん。」三たび譲り、乃ち下卿の礼を受け、以て見ゆ。</p>
647	<p>三十九年、周の襄王の弟帯、齊に来奔す。齊、仲孫をして王に帯の為に謝せしむ。襄王怒り、聴かず。</p>
645	<p>四十一年、秦の穆公、晋の恵公を虜にし、復た之を帰す。是の歳、管仲・濕朋皆卒す。管仲病むや、桓公問いて曰く、「群臣の誰が相とす可きものか。」管仲曰く、「臣を知ること、君に如くものは莫し。」公曰く、「易牙は如何。」對えて曰く、「子を殺し、以て君に適う。人の情に非ず。不可なり。」公曰く、「開方は如何。」對えて曰く、「親に倍き、以て君に適う。人の情に非ず。近づけ難し。」公曰く、「豎刁（チョウ）は如何。」對えて曰く、「宮に自りて、以て君に適う。人の情に非ず。親しみ難し。」管仲死して、桓公、管仲の言を用いず。卒に近づけて三子を用う。三子、権を専らにす。</p>
644	<p>四十二年、戎、周を伐ち、周、急を齊に告ぐ。齊、諸侯をして各々卒を發し周を伐らしむ。是の歳、晋の公子重耳、来り、桓公、之に妻す。</p>
643	<p>四十三年、初め、齊の桓公の夫人三たりあり。王姫・徐姫・蔡姫と曰う。皆子無し。桓公、内を好み（好色）、内寵多し。夫人の如き者は六人あり。長衛姫は無詭を生み、少衛姫は恵公元を生み、鄭姫は孝公昭を生み、葛嬴は昭公潘を生み、密姫は懿公商人を生み、宋華子は公子雍を生む。桓公、管仲と與に、孝公を宋の襄公に属せしめ、以て太子と為す。雍巫（易牙）、衛の共姫に寵有り。宦者豎刁に因り以て厚く桓公に献じ、亦寵有り。桓公、之を許し、無詭を立つ。管仲卒するや、五公子皆立つを求む。冬十月乙亥、齊の桓公卒す。易牙入り、豎刁と與に内寵に因り羣吏（諸大夫）を殺す。而して公子無詭を立てて君と為す。太子昭、宋に奔る。桓公病むや、五公子、各々党を樹て立つを争う。桓公、卒するに及び、遂に相攻む。故に以て宮中は空しく、敢て棺するもの莫し。桓公の屍、牀上に在ること六十七日。屍蟲、戸に出づ。十二月乙亥、無詭立つ。乃ち棺して赴ぐ。辛巳夜、斂殯（レン・ヒン、殯はもがり、死体を棺に入れて安置すること）す。桓公、十有余子有り、要するに其の後立つ者五人、無詭は立ちて三月して死</p>

	し、諡無し。次は孝公、次は昭公、次は懿公、次は恵公。
642	孝公元年、三月、宋の襄公、諸侯の兵を率い、齊の太子昭を送りて齊を伐つ。齊人恐れ、其の君無詭を殺す。齊人、將に太子昭を立てんとす。四公子の徒、太子を攻む。太子、宋に走る。宋、遂に齊人四公子と戦う。五月、宋、齊の四公子の師を敗りて、太子昭を立て、是を齊の孝公と為す。宋、桓公の管仲と與に之に太子を属せしむるを以て、故に來たりて之を征す。乱の故を以て、八月に乃ち齊の桓公を葬る。
637	六年春、齊、宋を伐つ。其れ齊に同盟せざるを以てなり。夏、宋の襄公卒す。
636	七年、晋の文公立つ。
633	十年、孝公卒し、孝公の弟潘、衛の公子開方に因り、孝公の子を殺して立つ（潘、衍字）。是を昭公と為す。昭公は桓公の子なり。其の母は葛嬴と曰う。
632	昭公元年、晋の文公、楚を城濮に敗りて、諸侯に踐土に会し、周に朝せしむ。天子、晋をして伯を称せしむ。
627	六年、翟、齊を侵す。晋の文公卒す。秦の兵、殽に敗る。
621	十二年、秦の穆公卒す。
613	十九年五月（表及び左伝は二十年に作る、年代は二十年で計算）、昭公卒す。子の舎立ち、齊君と為る。舎の母は昭公に寵無し。国人、畏るる莫し。昭公の弟商人、桓公の死するを以て立つを争いて得ず。陰かに賢士に交わり、百姓に附愛す。百姓、説ぶ。昭公卒するに及び、子の舎立つも、孤弱なり。即ち衆と與に、十月、墓上に即き、齊君舎を弑す。而して商人、自ら立つ。是を懿公と為す。懿公は桓公の子なり。其の母は密姫と曰う。
609	懿公四年春、初め、懿公、公子為りし時、丙戎の父と獵をし、獲を争いて勝たず。位に即つくに及びて丙戎の父の足を断ちて、丙戎をして僕（御者）たらしむ。庸職の妻は好し。公、之を宮に内れて、庸職をして驂乗（添え乗り、兵車では戎右、乗用車では驂乗と言う）たらしむ。五月、懿公、申池に遊び、二人、浴して戯る。職曰く、「(丙戎に対して) 足を断たれしものの子。」戎曰、「(庸職に対して) 妻を奪われたるものの子。」二人俱に此の言に病み、乃ち怨み、謀りて公と竹中に遊ぶ。二人、懿公を車上に弑し、竹中に棄てて、亡げ去る。懿公の立つや、驕る。民、附かず。齊人、其の子を廢して、公子元を衛より迎えて、之を立つ。是を恵公と為す。桓公の子なり。其の母は衛女たりて、少衛姫と曰う。齊の乱を避く。故に衛に在り。
607	恵公二年、長翟、來る。王子城父、（長翟を）攻め之を（喬如の弟榮）殺し、之を北門に埋む。晋の趙穿、其の君靈公を殺す。

599	十年、恵公卒す。子の頃公無野立つ。初め、崔杼、恵公に寵有り。恵公卒するや、高・国、其の偪（せまる）らんことを畏れ、之を逐う。崔杼、衛に奔る。
598	頃公元年、楚の莊王、強く、陳を伐つ。
597	二年、鄭を困む。鄭伯、降る。已にして国を鄭伯に復す。
593	六年、春、晋、郤克を齊に使わす。齊、夫人をして帷仲にて之を觀しむ。郤克、上り、夫人、之を笑う。郤克曰く、「是を報いずんば、復た河を渉らざらん。」帰りて、齊を伐つを請う。晋侯、許さず。齊の使い、晋に至る。郤克、齊の使者四人を河内に執らえ、之を殺す。
591	八年、晋、齊を伐つ。齊、公子強を以て晋に質とす。晋の兵去る。
589	十年、春、齊、魯・衛を伐つ。魯・衛の大夫、晋に如き、師を請う。皆郤克に因る。晋、郤克をして車八百乗を以て中軍の將為らしめ、士燮（ショウ）をして上軍に將たらしめ、欒書をして下軍に將たらしめ、以て魯・衛を救い、齊を伐つ。六月壬申、齊侯の兵と靡笄（ビ・ケイ）の下に合う。癸酉、鞍に陳す。逢丑父、齊の頃公の右為り。頃公曰く、「之に馳せよ。晋の軍を破りて会食せん。」射て郤克を傷つけ、流血、履に至る。克、還り壁に入らんと欲す。其の御曰く、「我、始めて（戦場に）入り、再び傷つきたれども、敢て疾むと言わざりき。恐らくは士卒を懼れしめん。願わくは子、之を忍べ。」遂に復た戦う。戦いて、齊、急なり。丑父、齊侯の得られんことを恐る。乃ち処を易え、頃公を右と為す。車、木に絛（かか）りて止まる。晋の小將韓厥、齊侯の車前に伏して曰く、「寡君、臣をして魯・衛を救わしめ、之に戯（たたかう）う。」丑父、頃公をして下りて飲を取らしむ。因りて亡脱して去り、其の軍に入るを得たり。晋の郤克、丑父を殺さんと欲す。丑父曰く、「君に代わりて死して、僂せられなば、後の人臣、其の君に忠なる者無からん。」克、之を舍す。丑父、遂に齊に亡歸するを得たり。是に於いて晋の軍、齊を追い、馬陵に至る。齊侯、宝器を以て謝せんと請う。聴かず。必ず克を笑いし者、蕭桐叔の子を得て、齊をして畝を東せしめん（田の畝の方向を東西にして、西から侵入しやすくする）。對えて曰く、「叔の子は齊君の母なり。齊君の母は亦た猶ほ晋君の母のごとし。子、安にか之を置かん。且つ、子、義を以て伐ち、而して暴を以て後と為すは、其れ可ならんや。」是に於いて乃ち許し、魯・衛の侵地を反さしむ。
588	十一年、晋、初めて六卿を置き、鞍の功を賞す。齊の頃公、晋に朝し、尊びて晋の景公を王とせんと欲す。晋の景公、敢て受けず。乃ち歸る。帰りて、頃公、苑囿を弛め、賦斂を薄くし、孤を振（すくう）い、疾を問い、積聚を虚しくし、以て民を救う。民も亦大いに説ぶ。厚く諸侯を礼す。頃

	公の卒するに竟（いたる）るまで、百姓、付き、諸侯、犯さず。
582	十七年、頃公卒す。子の靈公環立つ。
573	靈公九年、晋の欒書、其の君厲公を弑す。
572	十年、晋の悼公、斉を伐つ。斉、公子光を晋に質たらしむ。
563	十九年、子の光を立てて太子と為す。高厚、之に傅たり。（光を）諸侯に会し、鐘離に盟わしむ。
555	二十七年、晋、中行獻子をして斉を伐たしむ。斉の師敗る。靈公、走り、臨菑に入る。晏嬰、靈公を止む。靈公従わず。曰く、「君も亦勇無からん。」晋の兵、遂に臨菑を囲む。臨菑、守城して、敢て出でず。晋、郭中を焚きて去る。
554	二十八年、初め靈公、魯の女を取り、子の光を生み、以て太子と為す。仲姫・戎姫あり。戎姫、嬖せらる。仲姫、子の牙を生む。之を戎姫に属す。戎姫、以て太子と為さんと請う。公、之を許す。仲姫曰く、「不可なり。光の立つや、諸侯に列せり。今故無く之を廢せば、君必ず之を悔いん。」公曰く、「我に在るのみ。」遂に太子光を東にし、高厚をして牙に傅たらしめて太子と為す。靈公疾む。崔杼、故（もと）の太子光を迎えて之を立つ。是を莊公と為す。莊公、戎姫を殺す。五月壬辰、靈公卒す。莊公、位に即き、太子牙を勾竇（トウ）の丘に執らえ、之を殺す。八月、崔杼、高厚を殺す。晋、斉の乱を聞き、斉を伐ち、高唐に至る。
551	莊公三年、晋の大夫欒盈、斉に奔る。莊公、厚く客として之を待つ。晏嬰・田文子諫む。公、聴かず。
550	四年、斉の莊公、欒盈をして間（ひそかに）かに晋の曲沃に入り、内応を為さしめ、兵を以て之に随い、太行を上り、孟門に入る。欒盈、敗れ、斉の兵、還り、朝歌を取る。
548	六年、初め、棠公（斉の棠邑の大夫）の妻好し。棠公死し、崔杼、之を取る。莊公、之に通じ、数々崔氏に如き、崔杼の冠を以て人に賜う。侍者曰く、「不可なり。」崔杼怒る。其れ晋を伐つに困り、晋と與に謀を合わせ、斉を襲わんと欲す。而るに間を得ず。莊公、嘗て宦者賈拳を答うつ。賈拳復た侍し、崔杼の為に公を間（うかがう）い、以て怨みに報いんとす。五月、莒子、斉に朝す。甲戌を以て之を饗す。崔杼、病を称し、事を視ず。乙亥、公、崔杼の病を問い、遂に崔杼の妻に従う（会うことを求める）。崔杼の妻、室に入り、崔杼と與に自ら戸を閉じて出でず。公、柱を擁きて歌う（出てくるように歌で頼んだ）。宦者賈拳、公の従官を遮りて入り、門を閉ず。崔杼の徒、兵を持ち、宮中従り起こる。公、台に登りて解かんことを請う。許さず。盟わんと請う。許さず。廟にて自殺せんと請う。許さず。皆曰く、「君の臣杼は病に疾み、命を聴くこと能わず。公宮に近し。

	<p>陪臣、争趣せしが（夜警していたが）、淫者有り。二命を知らず。」公、牆を踰ゆ。射て公の股に中つ。公、反りて墜ち、遂に之を弑す。晏嬰、崔杼の門外に立ちて曰く、「君、社稷の為に死せば、則ち之に私せん。社稷の為に亡びば、則ち之に亡びん。若し己の為に死し己のために亡びば、其の私暱（シ・ジツ、個人的にごく身近で親しいもの）に非ざる者は、誰が敢て之に任ぜん。」門開けて入り、公の屍を枕にして哭し、三踊（哀痛のあまり、地団太踏むの礼）して出づ。人、崔杼に謂う、必ず之を殺せ、と。崔杼曰く、「民の望みなり。之を舍（ゆるす）して民を得ん。」丁丑、崔杼、莊公の異母弟杵臼を立つ。是を景公と為す。景公の母は魯の叔孫宣伯の女なり。景公立つや、崔杼を以て右相と為し、慶封を左相と為す。二相、乱の起こらんことを恐れ、乃ち国人と盟いて曰く、「崔・慶に與せざる者は死せん。」晏子、天を仰ぎて曰く、「嬰の獲らざる所なり。唯君に忠なりて、社稷を利する者のみ是に従わん。」盟うことを肯ぜず。慶封、晏子を殺さんと欲す。崔杼曰く、「忠臣なり。之を舍せ。」齊の太史、書して曰く、「崔杼、莊公を弑す。」崔杼、之を殺す。其の弟復た書す。崔杼、復た之を殺す。少弟復た書く。崔杼、乃ち之を舍す。</p>
547	<p>景公元年、初め、崔杼、子の成及び彊を生む。其の母は死せり。東郭の女を取り、明を生む。東郭の女、其の前夫の子無咎と其の弟偃をして崔氏に相たらしむ。成、罪有り。二相、急に之を治め、明を立てて太子と為す。成、請う、崔（杼は衍字）に老せん、と。崔杼、之を許す。二相、聴かず。曰く、「崔は宗邑にして、不可なり。」成・彊、怒り慶封に告ぐ。慶封、崔杼と郤有り、其の敗れんことを欲するなり。成・彊、無咎・偃を崔杼の家に殺す。家皆奔り亡ぐ。崔杼怒る。人無し。一宦者をして御さしめ、慶封を見る、慶封曰く、「請う、子の為に之を誅せん。」崔杼の仇盧蒲ベツ（“敵”の字の下に“女”）をして崔氏を攻めしめ、成・彊を殺し、尽く崔氏を滅ぼし、崔氏の婦自殺す。崔杼、帰るところ母く、亦た自殺す。慶封、相国と為り、権を専らにす。</p>
545	<p>三年十月、慶封、出でて獵す。初め慶封、已にして崔杼を殺し、益々驕り、酒を嗜み、獵を好み、政を聴かず。慶舎（慶封の子）をして政を用いしめ、已して内に郤有り。田文子、桓子に謂いて曰く、「乱、將に作らんとす。」田・鮑・高・欒、相與に慶氏を謀る。慶舎、甲を發し慶封の宮を囲みて、四家の徒と共に襲いて之を破る。慶封、還り、入るを得ず、魯に奔る。齊人、魯を讓む。封、呉に奔る。呉、之に朱方を與う。其の族を聚て、之に居る。齊に在りしよりも富めり。其の秋、齊人、莊公を徙し葬り、崔杼の屍を市に僂し、以て衆に説く。</p>
539	<p>九年、景公、晏嬰をして晋に之かしま。叔向と私に語りて曰く、「齊の政</p>

	は卒に田氏に帰す。田氏、大徳無しと雖も、公権を以て私し、民に徳あり。民、之を愛す。
536	十二年、景公、晋に如き、平公を見、與に燕を伐たんと欲す。
530	十八年、公、復た晋に如き、昭公を見る。
522	二十六年、魯の郊に獵し、因りて魯に入り、晏嬰と與に魯の礼を問う。
517	三十一年、魯の昭公、季子の難を辟け、斉に奔る。斉、千社（二十五家を以て一社と為す。）を以て之を封ぜんと欲す。子家（魯の家臣）昭公を止む。昭公乃ち斉が魯を伐ち、鄆を取り、以て昭公を居かんことを請う。
516	三十二年、彗星見わる。景公、栢寝（正殿）に坐し、歎じて曰く、「（此の宮殿は）堂堂たり。誰が此れを有たん。」群臣皆泣き、晏子笑い、公怒る。晏子曰く、「臣、群臣の諛うこと甚だしきを笑う。」景公曰く、「彗星、東北に出で、斉の分野（天の星の位置を、地上の諸国の位置に割り当てる）に當る。寡人、以て憂いと為す。」晏子曰く、「君、臺を高くし、池を深くし、賦斂は得ざるが如く（得ていないように満足していないこと）、刑罰は勝えざるを恐る。彗星（ハイ・セイ、彗星のようで光が四方へ出る、妖星）將に出でんとす。彗星、何ぞ懼れんや。」公曰く、「禳う可しや、否や。」晏子曰く、「神をして祝して来る可からしめば、亦た禳いて去る可からん。百姓の苦怨は万を以て数う。而して、君一人をして之を禳わしむとも、安んぞ能く衆口に勝たんや。」是の時、景公、好みて宮室を治し、狗馬を聚め、奢侈にして賦を厚くし刑を重くす。故に晏子、此れを以て之を諫む。
506	四十二年、呉王闔閭、楚を伐ち郢に入る。
501	四十七年、魯の陽虎、其の君を攻め勝たず、斉に奔り、斉が魯を伐つを請う。鮑子、景公を諫め、乃ち陽虎を囚らう。陽虎、亡ぐるを得て、晋に奔る。
500	四十八年、魯の定公と夾谷に好会す。犁鉏（リ・ショ、斉の臣）曰く、「孔丘は礼を知れども、怯（キョウ）なり。請う、萊人をして樂を為さしめ、因りて魯君を執らえば、志を得可からん。」景公、孔丘の魯に相たるを害（いむ）み、其の覇たらんことを懼る。故に犁鉏の計に従う。方に会し、萊の樂を進む。孔子、歴階（一段毎に足を揃えて登るのが、礼に適った方法。歴階は一段一足交互に登る礼を無視した方法）して上り、有司（役人）をして萊人を執らえ之を斬らしめ、礼を以て景公を讓む。景公、慙じ、乃ち魯に侵地を帰し、以て謝して罷め去る。是の歳、晏嬰卒す。
493	五十五年、范・中行、其の君に晋にて反く。晋、之を攻むること急なり。来たりて粟を請う。田乞、乱を為し、党を逆臣に樹てんと欲し、景公に説いて曰く、「范・中行は数々斉に徳有り。救わざる可からず。」乃ち乞をして救いて、之に粟を輸らしむ。

490	<p>五十八年、景公の夫人燕姫の適子死す。景公の寵妾芮姫、子の荼を生む。荼、少く、其の母賤しく、行無し（行状が悪い）、諸大夫、其の嗣と為らんことを恐る。乃ち言う、願わくは諸子の長じて賢なる者を択び太子と為せ、と。景公老いて、嗣事を言うを悪む。又、荼の母を愛し、之を立てんと欲すれども、之を口に発するを憚り、乃ち諸大夫に謂いて曰く、「樂を為すのみ。国、何ぞ君無きを患えんや。」秋、景公、病む。国恵子・高昭子に命じて、少子荼を立てて太子と為し、群公子を逐い、之を萊に遷さしむ。景公卒し、太子荼立つ。是を晏孺子と為す。冬、未だ葬らず。而して群公子誅せらるるを恐れ、皆出亡す。荼の諸々の異母兄公子の壽・駒・黔、衛に奔る。公子鉏・陽生は魯に奔る。萊人、之を歌いて曰く、「景公死するや、埋むるに與らず。三軍の事や、謀るに與らず。師（諸公子のこと）や、師や、胡（いずれ）れの党（ところ）に之かんか。」</p>
489	<p>晏孺子元年、春、田乞、高・国に事うる者と偽り、朝する毎に、乞、驂乗して、言いて曰く、「子（高張・国夏を指す）、君に得たり（主君の寵信を得たこと）。大夫皆自ら危ぶみ、謀りて乱を作さんと欲す。」又諸大夫に謂いて曰く、「高昭子、畏る可し。未だ発せざるに及び、之に先んぜよ。」大夫、之に従う。六月、田乞・鮑牧、乃ち大夫と與に兵を以て公宮に入る（攻、衍字）。高昭子、（昭子、衍字）之を聞き、国恵子と與に公を救う。公の師、敗る。田乞の徒、之を追う。国恵子、莒に奔る。（遂反殺、衍字）高昭子・晏圉、魯に奔る。八月、齊の乗（へイ）意茲、（魯に奔る、脱字ではないか）。田乞、二相を敗る。乃ち人をして魯に之き、公子陽生を召さしむ。陽生、齊に至り、私かに田乞の家に匿る。十月戊子、田乞、諸大夫に請いて曰く、「常（田乞の子）の母、魚菽（シユク）の祭り（魚と菽の粗食の宴）有り。幸いに来たりて会飲せよ。」会飲す。田乞、陽生を橐中に盛り、坐の中央に置く。橐を発き、陽生を出だして曰く、「此れ乃ち齊君なり。」大夫皆伏して謁す。將に大夫と盟いて之を立てんと欲す。鮑牧、酔う。乞、大夫を誣（あざむく）きて曰く、「吾、鮑牧と謀り、共に陽生を立つ。」鮑牧怒りて曰く、「子、景公の命を忘れたるか。」諸大夫、相視て悔いんと欲す。陽生、前みて頓首して曰く、「可なれば、則ち之を立てよ。否んば則ち已めよ。」鮑牧、禍の起こらんことを恐れ、乃ち復た曰く、「皆、景公の子なり。何為すれぞ不可ならん。」乃ち與に盟い、陽生を立つ。之を悼公と為す。悼公、宮に入り、人をして晏孺子を駘に遷さしめ、之を幕下（途中の軍營）に殺す。而して孺子の母芮子を逐う。芮子の故は賤しくて、孺子は少し。故に権無く、国人、之を軽んず。</p>
488	<p>悼公元年、齊、魯を伐ち、謹（カン）・闡（セン）を取る。初め、陽生、亡げて魯に在り。季康子、其の妹を以て之に妻す。帰り位に即くに及びて、</p>

	<p>之を迎えしむ。季姫、季魴（ほう）侯（季康子の叔父）と通じ、其の情を（季康子に）言う。魯、敢て與えず。故に齊、魯を伐ち、竟に季姫を迎う。季姫、嬖せられ、齊、復た魯に侵地を帰す。鮑子、悼公と郤有り。善からず。</p>
485	<p>四年、呉・魯、齊の南方を伐つ。鮑子、悼公を弑し、呉に赴（つげる）ぐ。呉王夫差、軍門の外に哭すること三日。將に海従り入りて齊を伐たんとす。齊人、之を敗る。呉の師乃ち去る。晋の趙鞅、齊を伐ち、頼（齊の邑）に至りて去る。齊人、共に悼公の子壬を立つ。是を簡公と為す。</p>
481	<p>簡公四年、春、初め、簡公、父陽生と俱に魯に在るや、闕（カン）止（子我、孔子の弟子の子我とは別人）、寵有り。位に即くに及びて、政を為さしむ。田成子、之を憚り、驟（シュウ、しばしば）々、朝に顧みる。御の鞅、簡公に言いて曰く、「田・闕は竝ぶ可からず。君、其れ焉を択べ。」聴かず。子我、夕す（ゆうがたに参内すること、朝す、は朝に参内すること）。田逆、人を殺し、之に（人殺しの現場）に逢う。遂に捕らえ以て入る。田氏は方に睦まし。囚をして病まして、囚を守る者に酒を遣り、酔わせて守者を殺し、亡ぐるを得たり。子我、諸田に陳宗に盟う。初め、田豹、子我の臣と為らんことを欲す。公孫をして豹を言わしむ。豹、喪有りて止む。後に卒に以て臣と為り、子我に幸せらる。子我、謂いて曰く、「吾、尽く田氏を逐いて女を立てん、可なるか。」對えて曰く、「我、田氏に遠し。且つ其の違ふ者（子我に従わない者）は数人を過ぎず。何ぞ尽く焉を逐わん。」遂に田氏に告ぐ。子行（田逆）曰く、「彼（子我）、君に得たり。先んぜずんば、必ず子（田常）に禍せん。」子行、公宮に舍る。夏五月、壬申、成子の兄弟四乗（兄弟は八人、一乗に二人乗るので四乗）して公に如く。子我、幄（帳の下りた政務を掌るところ）に在りて、出でて之を迎う。（子我を締め出して）遂に入りて門を閉ず。宦者、之を禦ぐ。子行、宦者を殺す。公、婦人と酒を檀臺に飲む。成子、諸を寢（表座敷）に遷さんとす。公、戈を執り、將に之を撃たんとす。太史子餘曰く、「利ならず非ざるなり。將に害を除かんとするなり（我が君に不利なことをするのではありません。君への害を除こうとしているのです）。」成子、出でて、庫（武器庫）に舍る。公、猶ほ怒れるを聞き、將に出でんとして曰く、「何れの所にか君無からん（その気になればどこにでも仕える君はいてるだろう）。」子行、劍を抜きて曰く、「需（ためらい）いは事の賊なり（ためらいは、物事を害するものである）。誰か田宗に非ざらん（誰でも代って田宗になることができる）。子を殺さざる所の者は、田宗の如く有ればなり（文意、読み方共に諸説あり。私が“あなたを殺さないのは、あなたが田氏の宗家であるからで、其れを捨てて出奔するなら、私はあなたを殺しま</p>

	<p>す”と解釈しておく。)」乃ち止む。子我、帰り、徒を属(あつめる)め、闔(イ、宮中の小門)と大門を攻む。皆勝たず。乃ち出づ。田氏、之を追う。豊丘の人、子我を執らえ以て告げ、之を郭関に殺す。成子、将に大陸之方を殺さんとす。田逆、請いて之を免ず。公命を以て車を道に取り、雍門を出づ。田豹、之に車を與えんとす。受けずして曰く、「逆、余の為に請い、豹、余に車を與えば、余、私(私恩)有るなり。子我に事えて、其の讎に私有らば、何を以て魯・衛の士に見えん。」庚辰、田常、簡公を徐州に執らう。公曰く、「余、蚤くに御鞅の言に従わば、此れに及ばざりしならん。」甲午、田常、簡公を徐州に弑す。田常、乃ち簡公の弟驚を立つ。是を平公と為す。平公、位に即くや、田常、之に相たり。齊の政を専らにす。齊を割き、安平以東を田氏の封邑と為す。</p> <p>473 平公八年、越、呉を滅ぼす。</p> <p>456 二十五年、卒す。子の宣公積、立つ。</p> <p>405 宣公五十一年、卒す。子の康公貸、立つ。田会、廩丘に反す。</p> <p>403 康公二年、韓・魏・趙、始めて列して諸侯と為る。</p> <p>386 十九年、田常の曾孫田和(カ)、始めて諸侯と為る。康公を海濱に遷す。</p> <p>379 二十六年、康公卒す。呂氏、遂に其の祀りを絶つ。田氏、卒に齊国を有ち、齊の威王と為る。天下に強し。</p> <p>太史公曰く、「吾、齊に適きしが、泰山自り之を琅邪に属し、北は海に被(いたる)るまで、膏壤二千里。其の民は闊達にして、匿知(深く隠した知恵)多きは、其れ天性なり。太公の聖を以て国本を建つ。桓公の盛んなるや、善政を修め、以て諸侯に会盟し、伯を称するも、亦た宜ならずや。洋々たるかな。固に大国の風なり。」</p>
--	---